

新春の集いご挨拶

平成 20 年 1 月 16 日
社団法人日本オーディオ協会
会 長 鹿井信雄

明けましておめでとうございます。

本日は日本オーディオ協会創立 55 周年祝賀、“新春の集い”にお集まりいただき有難うございます。

創立 35 周年からスタートした 5 年おきの第 5 回日本オーディオ協会賞の授賞式が行われ、今年度は 5 名の方を選ばせていただき顕彰させていただきましたことをまずご報告申し上げます。

今年は新年にあたり経済産業省から昨年よりご担当になられた情報通信機器課の住田孝之課長様、はじめ梅沢茂之企画調整官、宮崎卓行係長様の御3方のご出席をいただいております。後ほどご挨拶をいただくことになっております。

新しい年を迎え日本のオーディオ市場はスピーカーやコンポの活性化などやや明るい兆しが話題になってきておりますが、さらに変化を捉えて新しいチャレンジが大切な時期にあると考えます。

日本の市場を考えるとご承知のように人口構成的に成熟型社会になり、電子情報機器市場を見ると人間の感性に結びつく情報環境も段階を持ち波動的に進展しており、生まれ育った年代層別に感性的な受け取り方がそれぞれ異なっている事にお気づきの方も多と思います。

オーディオを含む情報体験を考えると、幼少年代の 0-15 歳人口約 1 千 5 百万人に加え約 2 千 5 百万人づつ、4 つの年代層集団に大きく分けられ、集団的な比較で見るとそれぞれにオーディオに対して異なる生活体験の上に立って育ってきていると考えております。

これら 5 つの異なる世代は生れ落ちて初めて体験する情報環境が大きく違っているわけで、私はそれぞれの層に対するオーディオの存在意義の観念を変えてアプローチを考えるべき時期に来ていると考え、むしろ、これまでの論議はオーディオの基本性能論に偏りすぎ生活感覚からの入り口はメーカーさんの販促活動や雑誌の宣伝に依存しすぎ、正しい着手が遅きに失したと反省しております。

今回より会期を 2 月開催とし横浜パシフィコのコンファレンスルームに場所を移し、直近に迫った A&V フェスタ 2008 では、よりご期待に沿えるようなアレンジを期し、昨年秋に開かれている他的高级オーディオから輸入オーディオまでのいくつかの展示会とも相俟ってオーディオ事業全体の活性化を計って行きたいものと考えております。

一方、日本オーディオ協会運営もここ 3 年かかってようやくネット情報化時代の基盤づくりが出来てきてホームページ、JAS ジャーナル、メルマガの「築地だより」と動き始めました。

メルマガにつきましては、これを機に正会員から賛助会員まで配信範囲を広げサポートして下さる会員の増強を図る所存です。

先ずは、2 月に時期を変更した A&V フェスタ 2008 を是非成功させるべくご支援をお願い申し上げます。

終わりにお集まりの皆様には新しい年を迎えて、創立 55 周年を機に次の 5 年間、60 周年に向けて何が大切か、出来るかにチャレンジする意気込みで進めていただきたいと思います。